

令和4年度 一般講演会 事後アンケート（オンライン参加）

2023.2.25（土）開催

オンライン申込 108 名→当日参加者 72 名：回収率 66%

1.お立場を教えてください。

当事者	家族	職場	支援者	その他
1名	1名	0名	20名	16名

- ・支援者内訳（ケアマネジャー7名、看護師3名、公認心理士1名、作業療法士1名、社会福祉士1名、認知症地域支援推進員6名、記載なし1名）
- ・その他内訳（高齢者デイサービス相談員1名、ケアマネジャー1名、医師1名、記載なし13名）

2.多田さんのお話を聞いて、ご自身の中で得られたことはありましたか？（自由記載）

- ・ご本人やご家族の声を実際に聞くことができ知らないことが多くとても勉強になりました。病気についての理解をすることだけでなく気持ちや思いを知ることがとても大切だと思いました。認知症と診断されたら外へどんどん行けるサポートをしていきたいと思いました。
- ・多田さんのお話を伺って、本当に目から鱗が落ち頭が下がる思いで有り難くお聞かせいただきました。実際、ご体験された事を包み隠さずお話して下さり、同じ思いをさせたくない一般社団法人を設立されご本人やご家族のために集いの場を提供しているという事で、多くの方が救われ癒されているのでしょう。
- ・家族の中に認知症だったり癌であったりもあって、さらに旦那様と大変な苦労をなされたのですね。最近はヤングケアラーはよく耳にしますが、お子様達も協力して頑張ってもらっちゃたのですね。家族が理解して寄り添えることが大切だと思いました。ありがとうございました。
- ・一人で抱え込むのではなく、助けてほしいといえる環境・地域を作っていくことの大切さ（賛同してくれる人を増やしていく）。
- ・自分で選んできた人生と言われていますが、心が張り裂けそうになる時期は本当にお辛かったと思います。やはり、経験された分、関わる本人、ご家族のお気持ちを深く理解し寄り添い心が軽くなられた方々がたくさんいらっしゃると思います。どの支援をしていても感情移入しそうになるときは、一度俯瞰して、客観視してみることが必要だと常々思います。（できていないことが多いですが・・・）どこまで支援すればいいんだろう、という思いと葛藤していますが、その方の歩んできた道、これから歩いていく道に関わる方々と笑顔になれる場面が多いようにイメージし、共有していくことが大切だと多田さんのお話を聴きながらとても考えさせられました。長男さん、次男さんは、とても素敵な方々なんだろうなあと思像します。そんな息子さんを持って多田さんご夫妻は誇ら

しいんだろうなあと思います。私も同じように長男次男がいますが、イメージすること、
ができる息子たちなのでどういう場面でも大丈夫なんだろうなと勝手に信頼しています。
日々の在り方の大事さを改めて考えさせられました。今日多田さんのお話を聴けたこと
がこの先財産になると思います。本当にありがとうございました。

- ・家族の協力が不可欠であるということ。

ADI 国際会議が日本で開催されてから、随分経過していますが、それでも尚まだ繋がるこ
とが叶っていない本人や家族が多いという現状の再認識。

- ・質問者もあったように、当事者家族の視点からみた医療者の何気ない言葉かけが、負担
を与える可能性があるのに、改めて言葉かけの難しさを感じました。

また若年性認知症のある方の制度的な支えの少なさ、家族の言えない苦しみ、悩みを少
しかもしれませんが、学ぶことができました。

- ・病棟では見えない、ご家族の現実的な課題が分かりました。

病棟看護師の役割が何かを改めて考える機会となりました。

- ・当事者の家族の方が経済的に困窮すると言うことが、改めてわかりました。何気なく私
たちがかける声かけや、話す言葉、支援の態度が、当事者や家族の方を傷つけることも
あるのだと分かりました。

- ・当事者や家族の方が実際に考えている事や感じている事、また誰にどこに相談していい
のかわからずに不安感だけが大きくなり生活している方が、少しでも安心できる場所や
信頼できる一人に慣れたらいいなと思い、まずは自分から地域とのかかわりを密にしな
がら思いの橋渡しができるケアマネになれるように働きかけていきたいと思います。

- ・若年性認知症をサポートできる事業所の少なさや家族の苦勞を聞いて介護保険が使える
ような法律の整備が必要になっていること知り、自分も

- ・当事者家族になった場合、とても大変だと感じました。また、若年性認知症に対する支
援の少なさに驚きました。

- ・沢山ありました。知っているようで、知ってなかった。体験と知識は、全然違うし、「で
きる人」を用意して下さっていたんだなと思います。必要な時（時代）に必要な人が、
世の中に送り出される（現れる）んですね。素晴らしい話でした。励みになります。自
分も頑張らなくてはト勇気づけられました。

- ・いつでも前を向いて歩いていく事

- ・情報を得ることがとても重要だと感じました。

- ・早急に給付などの支援と結びつけることの大切さを感じました。市役所との連携が困難
な場合も多く、模索することも多くあります。

- ・介護支援専門員職に就いていますが、若年性認知症の方を実際に担当したことがないので、当事者、
家族が抱える思いや苦悩、生活上の課題についてお聞きでき、気づきを得
ました。ありがとうございました。

- ・支援者の何気ない言葉で本人や家族が傷ついてしまうことは理解していても、何気ない

言葉で傷つけてしまうこともあるので意識したいと思った。また若年性認知症のことやその家族のために、認知症について知ってもらうこと、支援者や繋がりを増やすことをめざし、支援や普及啓発活動に今後も取り組んでいきたいと思います。

- ・次男さんが病院職員から「よく面会に来て下さいました」声をかけられた事に対して、面会回数が少ないと言われた気がしたとの話は、支援者として声かけの難しさを感じました。
- ・若年性認知症、誰にでもありうる症状のひとつであるからこそ、一人でも多くの方が理解を深めて皆が共生しやすい社会づくり（環境・サービス・資源・人材）がこれから求められると感じました。
- ・包括支援センターで勤務を始めたばかりの者ですが、今日の学びを頭に入れて支援していきたくとおもいました。
- ・当時者・ご家族の思いが聞けて勉強になりました
- ・当事者、家族のピアサポートは必要だと実感。
- ・なにげない一言が人を傷つけると改めて思いました。
- ・本人の「何かおかしい」をきちんと受け止める必要があるなど再確認できました。
- ・本人が何をしたいのか汲み取ることが大切だと感じた
- ・何気ない言葉のひとつひとつに責任を持ちたい。発する言葉には気をつけていきたい。
- ・経済的問題がかなり大きい
- ・とにかく話をよく聞いて、必要な窓口につなげる等ができればと思いました。
- ・当事者本人の気持ちを聞くことの大事さ。
- ・当事者だけでなく、家族の支援も考えなければならぬと痛感した
- ・当事者の葛藤や家族の思いを垣間見ることができ、支援の在り方について考えさせられました。ありがとうございます。
- ・記載なし 5名

3.若年性認知症相談窓口・若年性認知症支援コーディネーターの業務について 理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	記載なし
24名	13名	1名	0名

4.本日の講演会で参考になった事がありましたら記入をお願いします（自由記載）

- ・「認知症というフィルターをかけてみていた」という多田さんの言葉はまさに今の自分です。これからはその人を見る、その人らしさを引き出せるようにしたいと思います。
- ・何かあれば誰かに話をする事。一步踏み出して繋がる事の大切さを改めて学びました。
- ・お一人での対応は大変ですね。ありがとうございます。輪がもっと広まって支援、理

解してくださる方が増えていくと嬉しいですね。遊農倶楽部やグリーンスターなどの支援活動に注視していきたいです。

- ・告知その前後の家族・本人がたどる心理的プロセス
- ・アガペ会の泰さん、宮里さんがお話しされていた農業のお話を詳しくお聞きしたいと思いました。
- ・若年性認知症支援コーディネーターの設置基準が現実に即しておらず、一人で毎日駆けずり回って支援を進め、事務処理をも一人でこなさなければならない！という、過酷な業務であるという事実。そんな現状でも、認知症と診断された方や家族の多くの支援を、一人でこなしておられる素晴らしい活動に敬服しております。前任の中野さんといい、安次富さんといい、体壊さないでね。
- ・若年性認知症のある方の家族の負担（社会的、経済的、心理的側面など）
来年度から有農倶楽部、**green star** が始動すること
- ・考えていた以上のネットワークがあることを知り、もっと知識を得て、つながりを作っていきたいと思います。
- ・当事者や家族の方との交流することが大事だと感じました。交流を通してその方達が望む事をくみ取った支援をしたいと思います。
- ・当事者や関わる家族の何か一つのきっかけ作りや居場所作りができないかと地域とのかかわりを深めながら、認知症についてもっと知り、それをうまく伝えて安心して過ごせる地域にしていきたい。
- ・認知症の正しい情報を発信すること、自分を責めない、困っている人をほっとかない、仲間や居場所を作る家族の支援も利用者の支援もどちらも大切な支援であること。若年性認知症は金銭的な問題、教育問題、就労問題があるため社会に周知して支援がこぼれないように輪が広がってきたこと等わかっているつもりだったことが具体的に理解出来ました。
- ・現在、介護支援専門員として働いているが若年性認知症の方と知り合う場面がなく、少しでも勉強になればと思い参加させていただきました。そのために、認知症高齢者本人及び家族の支援内容に違いがわかり勉強になりました。
- ・若年性認知症ではないですが、がんの方がいらっしゃって、いろいろな機関につながられたなと思いました。調べます。
- ・本人のサポート、家族のサポート、周りのサポートが1番大事だと思いました。
- ・コーディネーターの困りごとや、今後の動向、新たな事業の紹介等もあってためになった。
- ・コーディネーター業務について知る事ができて良かった。
- ・認知症は当事者だけでなく家族も思い悩むものだからこそ、ひとりでかかえこまず周囲のサポートが必須だと強く感じました。
- ・対象者の相談がよせられたらコーディネーターに相談します。

- ・全部です
- ・ありがとうございました。
- ・連携の在り方
- ・若年性認知症の支援について。受け皿や利用できるサービスの少ない現状。
- ・記載なし 16名

5.コーディネーターに望むことや、コーディネーターから欲しい情報はありますか？

(自由記載)

- ・沖縄県や各市町村に若年性認知症の方はどのくらいいるのか知りたいです。
- ・安次富さんにはいつもお世話になっておりお一人で何役もこなされ、本当に頭が下がります。はやく沖縄県のコーディネーターが2~3人体制へなる事を願っています。ほしい情報は、何度か開催している当事者の方の生の声をお聞かせいただけたらと思います。
- ・各市町村に若年性認知症の窓口、コーディネーターがあると嬉しいです。
- ・安次富さんいつもありがとうございます。沖縄県に安次富麻紀さんがいるということがなくて心強いことだろうと思います。どうかお体も心も健康でありますように。コーディネーターさんの配置が難しいのであれば、補佐（事務等）の方がいてくだされば支援に専念できるのかなあと思いました。
- ・一生懸命に診断された本人のことを考えて動くコーディネーターさんもあれば、都道府県と全国的に考えると、コーディネーターの存在も連絡先すら探しても見つけられない地域もあります。診断後の再就職、そして病状の進行からの、退職をも含めた、長い付き合いになります。大変ですがよろしくお願ひします
- ・認知症に関わる看護師の研修会の場合があれば参加させて頂きたいと思います。例えば、事例検討会、地域包括、今回のような研修会など看護師の立場で情報や意見交換ができる場など
- ・いざ、地域でそのような方が相談として上がってきた場合、情報共有して一緒に支援をしたいんですが、始めの段階だとスピードも重要になると思ったのですが、どのように動いていけばいいのか知りたいです。
- ・県内の若年性認知症をサポートの活動環境など発信をして欲しい
- ・コーディネーターが一人しかいないことに驚愕でした。サポートしてくれる方は増やせないのでしょうか？
- ・ヤングケアラーの言葉はよく耳にするが実態がわからなので、今後は情報発信をお願いしたい。
- ・体験談などがあれば、交えて話していただいたので、分かりやすいです。
- ・LINEの情報がもらえてよかった。研修や講演会情報など情報が拾えるのは助かる。
- ・膨大な業務なのに県内にたった一人では少なすぎます。県に一人と言わず、もっと増員

をして貰えるように働きかけて、無理しすぎないで下さい。

- ・若年性認知症向けの集いの場やイベントなどあればインスタグラムなど SNS を活用して普及して頂きたいです。
- ・啓蒙活動を継続してください。
- ・大変な作業だと思いますが一人でも救うことができればと思います
- ・情報共有
- ・今回の企画ありがとうございます。現状を知ることが出来て感謝です。今後も情報を共有していただけると嬉しいです。今後もよろしくお願いします。
- ・記載なし 19名

6. 今回の講演会についての満足度を教えてください

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	記載なし
26名	12名	0名	0名

7. 次回の講演会の要望について（自由記載）

- ・動機付け面接を研修の中に取り入れてほしいです。講師は北海道の大学教授北田雅子さん率いるワークショップを推奨します。
- ・年に1, 2回の講演会なので、定期的に継続して私たちのスキルアップ繋がると助かります。
- ・感想になるのですが今回のように、体験談の中から当事者、旦那側職場、自分の職場の対応がわかりやすかったので、よかったです。
- ・県内での活動を知りたいので継続要望します。